

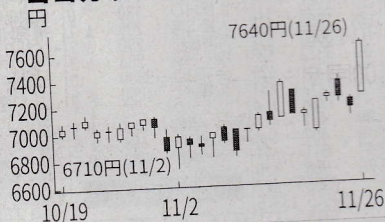
# 香港ファンドの保有好感

## ココカラファイン

### 話題の株

26日の東京株式市場で、ココカラファイン株が反発した。一時、前日比510円(7%)高の7640円まで上昇し、2018年6月以来、2年5カ月ぶりの高値をつけた。前日の取引終了後に、香港の投資ファンド、オアシス・マネジメントがココカラF株を5.56%保有していることが判

ココカラファイン (日足)



明。経営改善策の提案などへの期待から個人・機関投資家の思惑買いを集めた。終値は4900円(7%)

高の7620円。売買代金は前日の2.4倍の9億9700万円まで膨らんだ。

オアシスが25日に関東財務局に提出した大量保有報告書によると、保有目的は「ポートフォリオ投資および重要提案行為」と記載。

「株主価値を守るため重要提案行為を行うことがあり」という。オアシスは物言う株主(アクティビスト)として知られ、最近では東京ドーム取締役3人の解任を要求。これをドームが発表した翌10月20日にドーム株が一時4%高となった。

ココカラFの株価は割安

## 「物言う株主」思惑買い呼ぶ

で、PBR(株価純資産倍率)は1.63倍。コスモス薬品(4.67倍)やツルハホールディングス(3.1倍)と比べて低い水準だ。証券ジャパンの大谷正之氏は「ドラッグストア業界の競争を生き抜くため、資産効率化などの提案をする」とも考えられる」と話す。

もっとも現時点で具体的な提案は出ておらず、先行きには不透明感も漂う。市場からは「いったん提案が出ることへの期待を織り込んだ7600円台で安定しつつ、今後の提案内容次第で18年5月につけた高値(9020円)を目指す展開もありえる」(auカブコム証券の河合達憲氏)との声も聞かれた。